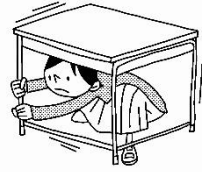


1年生学年だより



豊中市立第五中学校 2022年1月21日(金) No.41

どうとく 道徳 <ゆうへ> -生きていてくれてありがとう- 1月18日(火) | 限

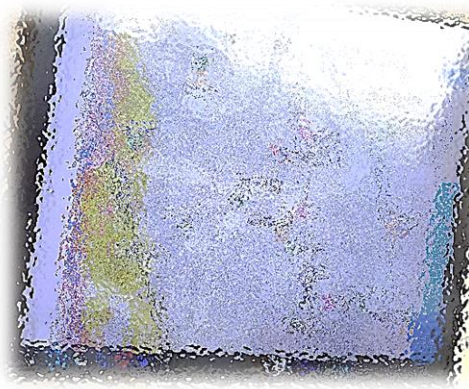
どうとくきょうかしょ 『あすを生きる』①より
はんしん あわじだいしんさい によって むすこ うしな ひっしや しゅきよ よ読みました。タンスの下敷きになった 1歳の息子を救えなかった後悔と、自分が生き残っていることの自責の念で、生きる希望を一時は失っていた筆者『たかいさん』です。亡くなった息子と、双子だったもう一人の娘は助かったあと、苦しみを抱えながら生き、筆者を励まし続けていたのです。

まえを向いて『今、生きている時間を大切に生きていく。』ということが、この人にとってどれほど重い決断だったことでしょうか。人の命について『生きる』ことを考える授業でした。



生徒の感想より

- 普段から、人とのつながりは大切にしたいと思った。
- 自分の大事な人やものがなくなったら、自分はどうするかを考えられた時間だった。
- 大災害が起こったときのことを考えておこうと思った。
- 人は、協力して生きていくことを大切にして、緊急事態でも協力してみんなで乗りこえていけばいいと思った。
- 悲しむだけでなく、笑顔で生きることが大切だということがわかった。
- 自分1人で生きているのではなく、まわりの人に支えられながら生きているんだとあらためて感じた。

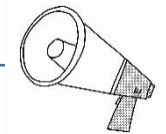


- まわりにいる家族や友だちが生きていて、つながれていることに感謝。
- まわりの人たちと仲良くなるのがうれしい。
- 友だちと親友になれるだけでも良いことだと思う。
- いろんな人のおかげで、生活ができるから人とのつながりを大切にしなければいけないと思った。



- いつでも助けてもらえる場所、人がいるから、少しは安心する。
- これからも命を大事にしたい。
- その人たちのためにも、精いっぱい生きていきたい。
- 人に助けられた分、人を助けられるようになりたい。
- 今、自分や家族、友だちが生きていることが当たり前ではないことに気づいた。これから、何事も大切にしようと思った。
- 人とのつながりは、本当に必要なのだろうか。住む場所があれば、1人でも大丈夫な気がすると思った。
- 命のバトンをつないでくれた人がいるから、今の自分があることがわかった。ちゃんと生きようと思った。
- どの誰にも大切な人がいて、そして、大切な人になっていると思った。

70期生の若い世代だからこそ、次の世代に伝えていけるよう地域の防災情報や豊中市の洪水や浸水時のハザードマップ、五中にもある防災スピーカーや指定避難場所などを確認しました。



<阪神・淡路大震災> ~兵庫県南部地震~

1995年1月17日月曜日、人々の活動がようやく始まるようしていた早朝、暗闇の午前5時46分、不気味なゴーという地鳴りのような音の直後に激しい揺れに襲われました。今から27年前でした。震源の浅い都市直下型地震だったと記録されています。地震や津波などの災害は突然、発生します。日頃の備えと人びとの経験を教訓にした『学び』から1人ひとりが命を守る行動ができるような70期の成長を願います。